

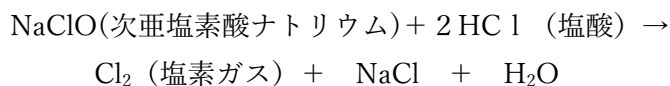
2020. 4. 27

畑 啓之

科学技術の読解力が求められる時代 新型コロナウイルスは作られたものか？

米国のトランプ大統領が、本気か冗談かは不明であるが、対コロナ対策として「消毒液の体内注射」を唱え、関連する事故が急増したとのニュースが報じられた。

消毒液は飲むだけでもその被害は予想される。たとえば、新型コロナウイルスやノロウイルスに効果があるという次亜塩素酸系の消毒薬であれば、胃内部で分泌される塩酸と反応して、毒性の強い塩素ガスが体内で発生することになる。



トランプ大統領も、このくらいの知識は国民も持っているだろうと冗談のつもりで発言したのであろうが、実際はその発言を真に受けた多くの国民がいたわけである。ウイルスは消毒液で消滅する。体内のウイルスも当然消滅する。この短絡がその行動をとらせたのだろう。

今回のコロナウイルスは中国・武漢の P4 設備を有するウイルス研究所で作られ、その研究所から故意か事故かはわからないが、漏れ出たものであると2月よりささやかれ続けている。トランプ大統領がこの件を徹底的に調査すると言明もした。

トランプ米大統領、ウイルス発生源、武漢の研究所か調査

日経 BP グローバル ウォッチ 2020年4月22日

<https://business.nikkei.com/atcl/NBD/19/depth/00591/>

そのささやかれ続ける元となっている記事の一つは次のものである。

人民解放軍の生物化学兵器部門最高責任者の女性少将が武漢ウイルス研究所に着任、新型コロナウイルス肺炎対策は気分と自然免疫を上げて乗り切れ！

坂崎文明 2020/02/16

https://note.com/sakazaki_dc/n/nee231ed970bd

不申 戸 業所 長島
2020.4.27

NY市 消毒液の事故急増

トランプ氏「体内注射」提唱で

【ニューヨーク共同】トランプ米大統領が新型コロナウイルス感染症の治療法として「消毒液の体内注射」を唱えた直後、ニューヨーク市の窓口に消毒液を含めた化学物質による家庭内事故の相談が急増したことが分かった。市当局が25日発表した。

大統領の主張を受け、住民が消毒液を体内に取り込むなどしたとみられる。地元メディアによると、大統領発言があった23日から翌日の計18時間に、市当局に30件の相談があった。前年同期比で倍以上だった。消毒液のメーカーは、消毒液を注射したり飲んだりしないよう呼び掛けている。

この武漢ウイルス研究所には、「SARS ウイルスとコウモリウイルスを組み合わせることによって、最初に、ヒトの気道に感染する新しいタイプのコロナウイルスを作成した科学者」の存在があるということをアメリカのニューヨークに拠点を持つ中国語専門の報道メディアの「新唐人テレビ (NTD)」が報じていたのです。

それがまた・・・その方も女性で。その方は、武漢ウイルス研究所の研究員である石正麗 (シー・ツェンリ) という名の方なのでした。Shi Zhengli は 5 年前に、人間の気道に感染する新しいクラウンウイルスを作成したことを明らかにしました。

Nature 誌で、「循環するコウモリのコロナウイルスの SARS 様クラスターがヒトの出現の可能性を示している」という題名の論文が Wuhan Virus Research Institute により発行されました。Ge Xingyi と Shi Zhengli はこの論文の共著者です。

論文によると、研究チームは、ウイルス遺伝子組換え技術を使用して、SARS コロナウイルスバックボーンと中国キクコウモリの SHC014 コロナウイルス表面タンパク質を使用して、ヒトアンジオテンシン変換酵素と相互作用できるハイブリッドコロナウイルスを設計しました。2 (ACE2) は人間の呼吸器細胞に感染するために結合し、非常に有毒です。

そして、その論文というのがこちらです。

Nat Med. 2015 Dec;21(12):1508-13. doi: 10.1038/nm.3985. Epub 2015 Nov 9.

A SARS-like cluster of circulating bat coronaviruses shows potential for human emergence.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26552008>

タイトル部分のみをここに引用しましたが、この研究は米国でなされ、また米国より投稿された論文です。トップネームも米国人です。ここに共著者として、上で問題にされている中国・武漢の研究者 2 人が名前を連ねています。

この論文が問題であるとする、米国も国際的に非難を受ける可能性が出てきます。

最先端の科学技術を読み解くためには、最先端の科学知識と経験が必要となります。

2020/4/26 A SARS-like cluster of circulating bat coronaviruses shows potential for human emergence

NATURE MEDICINE
Nature Publishing Group

Nat Med. 2015; 21(12): 1508-1513.
Published online 2015 Nov 9. doi: [10.1038/nm.3985](https://doi.org/10.1038/nm.3985)

PMCID: PMC4797993
NIHMSID: [NIHMS766724](https://doi.org/10.1038/nm.3985)
PMD: [26552008](https://doi.org/10.1038/nm.3985)

A SARS-like cluster of circulating bat coronaviruses shows potential for human emergence

Vineet D Menachery,^{1,2} Boyd L Yount, Jr,¹ Karl Debbink,^{1,2} Sudhakar Agnihotram,³ Lisa E Gralinski,¹ Jessica A Plante,¹ Rachel L Graham,¹ Trevor Scobey,¹ Xing-Yi Ge,⁴ Eric F Donaldson,¹ Scott H Randell,^{5,6} Antonio Lanzavecchia,⁷ Wayne A Marasco,^{8,9} Zhengli-Li Shi,⁴ and Ralph S Baric,^{1,2}

¹Department of Epidemiology, University of North Carolina at Chapel Hill, Chapel Hill, North Carolina USA
²Department of Microbiology and Immunology, University of North Carolina at Chapel Hill, Chapel Hill, North Carolina USA
³National Center for Toxicological Research, Food and Drug Administration, Jefferson, Arkansas USA
⁴Key Laboratory of Special Pathogens and Biosafety, Wuhan Institute of Virology, Chinese Academy of Sciences, Wuhan, China
⁵Department of Cell Biology and Physiology, University of North Carolina at Chapel Hill, Chapel Hill, North Carolina USA
⁶Cystic Fibrosis Center, Marsico Lung Institute, University of North Carolina at Chapel Hill, Chapel Hill, North Carolina USA
⁷Institute for Research in Biomedicine, Bellinzona Institute of Microbiology, Zurich, Switzerland
⁸Department of Cancer Immunology and AIDS, Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts USA
⁹Department of Medicine, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts USA

Vineet D Menachery, Email: vineet@email.unc.edu
[Contributor Information](#)
[✉]Corresponding author.

Received 2015 Jun 12; Accepted 2015 Oct 8.

(追加情報)

4月29日 日本経済新聞

日本経済新聞 2020.4.29

消毒液注射 発言巡り混乱

トランプ氏「責任ない」

【ワシントン】米大統領は27日の記者会見で、新型コロナウイルスの感染者への治療法として「消毒液の注射」に言及した自らの発言で混乱を招いたことについて「責任はない」



との認識を示した。全米各地で問い合わせが続出し、被害の報告も出たことに対する責任を回避した。発端は23日の会見だ。国土安全保障省の幹部が「日光に含まれる紫外線や漂白剤、消毒薬がウイルスの撃退に効果がある」旨を説明した。消毒薬の体内摂取を想定した発言ではなかったが、トランプ氏は「消毒液を注射してみてもどうか。確

かめるのは興味深い」などと不用意に述べた。この発言に医師や専門家からは消毒液の摂取は危険だとして批判が相次いだ。トランプ氏は24日、記者団に「あなたのような記者に皮肉を込めて質問しただけだ」と開き直った。27日の会見でも各地で問い合わせが増えたことについて「理由は想像がつかない」とかわした。

米メディアによると、東部メリーランド州や中西部ミシガン州などで消毒液を巡る発言に関する問い合わせが急増し、当局が対応に追われたとい

う。実際に摂取したとみられる事案もあった。トランプ氏を擁護することが多い保守系のFOXニュースも批判的に報じた。

トランプ氏は25日のツイートの「時代遅れのマスクは悪意ある質問ばかりで真実を伝えない。なんのために会見をするのか」と主張した。ホワイトハウスは発言が飛び出したのが記者会見だったため、連日開いていた会見の開催の是非を協議した。週末である25、26両日は珍しく休止とし、27日はいったんは取りやめた会見を結局は開いた。政権の対応が二転三転するなかで、感染者と死者は増え続けている。

トランプ米大統領の新型コロナウイルス対応は混乱を深める。AP